

# 代表質問から

## 地方版総合戦略

**問** 市町村の総合戦略策定の進捗状況と県の支援はどのようになっているのか。

**答** 市町村の総合戦略については、県内五十四市町村のうち二十二市町村が本年十月までに、残る三十二市町村が本年十一月以降、来年三月までに策定の予定と聞いている。

また、県では、自らの総合戦略の策定はもとより、地方創生に係る国の動向や他県の先進事例など、市町村への積極的な情報発信に努めているほか、市町村からの個別の相談に随時応じている。

市町村が地方創生の主役として持てる力を十分に発揮できるように、地域ごとの実情や課題、そのニーズに応じた確かな支援に努めていく。

## 東京オリンピック・パラリンピック

**問** 東京オリンピック・パラリンピックアスリート強化・支援事業については、本年度はどのような取り組みを行うのか。

**答** オリンピックに向けては、昨年度から各競技団体と連携強化を進め、競技用具の整備や外部指導者の活用などに取り組んできたが、本年度は特に国際舞台での経験を積むための海外遠征、トレーニングやコンディショニングの専門スタッフを活用した医・科学サポートを充実させていく。

パラリンピックに向けては、新たに強化に向けた組織の整備や、実施競技の体験会などにより才能ある選手の掘り起こしを行い、さらに、合同練習会への参加や国内外への遠征などを支援していく。

本県選手が一人でも多く出場できるように、選手の発掘・育成・強化を進めていく。

## ナショナルフットボールセンター

**問** 日本サッカー協会の(仮称)JFANAショナルフットボールセンター設置の効果は、どのように考えているのか。

**答** (仮称)JFANAショナルフットボールセンターは、各年代の日本代表の練習や合宿をはじめ、指導者・審判の養成や若手選手の育成も行う、天然芝・人工芝のサッカー場、アリーナ、クラブハウス等を備えた、国際交流・国際貢献の拠点ともなる施設である。この施設の整備により、

課題であった公園海側部分の整備が図られる

一流選手のプレーに直接接することで、子供たちの夢を大きく育むことができ、サッカーの技術力の向上だけでなく、県全体のスポーツ振興が見込まれる

・二〇二〇年の東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地としての活用も見込まれる

などの効果のほか、幕張のさらなる賑わい創出や活性化に資することなども期待されている。

## 認知症対策

**問** 認知症の早期発見や初期治療の取り組みはどうか。

**答** わかりやすい発見を促すために、どのような対応を行っているのか。認知症は、早期の発見と進行の段階に応じた適切な対応により、症状を軽減したり、生活機能の低下を緩やかにできると言われており、本人や家族など身近な人が、初期症状に気づく早期発見と、医師による早期診断が大変重要である。

県では、広く県民に対し、「認知症サポーター養成講座」等を通じて認知症の正しい知識を普及するとともに、かかりつけ医に対する認知症診断の知識や技術等の習得を目的とする研修などを実施している。

また、早期発見のために有用なチェックリストを作成し、県のリーフレットやホームページ等へ掲載しており、今後も、さまざまな機会を活用しながら、認知症が簡単にわかりやすく発見できるような取り組みを進めていく。

**問** 県は、貧困問題の実態をどう認識しているのか。

**答** 国は、貧困問題の実態をどう認識しているのか。また、貧困の解決のためにどう責任を果たそうとしているのか。

## 障害者雇用

**問** 障害者雇用を促進するため、中小企業へのアドバイスが必要と考えるが、どのような支援体制をとっているのか。

**答** 中小企業には、障害のある人の受入れや職場への定着に関するノウハウがない場合も多く、特に規模の小さな企業では、障害者雇用がなかなか進まない状況にある。

本県企業の大半を占める中小企業が、障害者雇用を促進することは大変重要であるため、県では、県内十六地域に設置した障害者就業・生活支援センターに「企業支援員」を配置し、障害者の職域開拓や定着のための指導方法などについて、個々の企業を訪問して、きめ細やかなアドバイスを行っている。

また、雇率の低い中小企業を対象に、積極的に取り組む企業の職場見学会や意見交換会などを開催する「障害者就労促進チャレンジ事業」を実施し、障害者雇用への理解促進を図っていく。

**問** 海上から見た千葉県の新たな観光スポットの発掘を進めるべきと思うがどうか。

**答** 旅客船を利用した観光では、ルート上にどれだけ魅力的な観光スポットがあるかが、大変重要だと認識している。東京湾北部の臨海部には、東京ディズニーリゾートやグローバルな活動拠点である幕張新都心の高層ビル群などがあり、こうした資源を活用することも有効だと考える。

## 水産業

**問** 産地間での競争が激化する中、漁港や流通・加工施設などの整備をどのように進めていくのか。

**答** 流通拠点となる漁港においては、水揚げから出荷までの関連施設を一体的に整備し、重要な地域産業である東京湾のノリ養殖については、コスト削減につながる施設を整備することにより、本県水産物の品質や、価格面での優位性を高めていくことが重要である。

このため、銚子漁港において、本年三月に高度衛生管理型市場を整備し、鮮度や衛生面の向上を図るとともに、大型のまき網漁船が水揚げ可能な、岸壁の整備を進めている。

また、ノリ養殖については、生産経費削減のため、最大の産地である富津市に、新たに最新式の共同加工施設を導入する予定である。

県では、こうした取り組みを計画的に推進し、激化する産地間競争に打ち勝てるよう、本県水産業を積極的に支援していく。

**問** 圏央道を今後どのように活用していくのか。

**答** 平成二十五年の圏央道東金・木更津間の開通により、アクアラインや館山道などの高速道路の交通量が増加するなど、「人」と「モノ」の流れが活発化している。

また、圏央道沿線をはじめ、県内への企業立地が進み、平成二十六年の県内への企業立地件数は、前年比約五〇%の増加となっている。さらに、大型商業施設の出店やアウトレットの拡張なども進み、平成二十五年の観光入込客数も統計開始以来最高を記録するなど、経済の好循環が生まれている。

## 特殊詐欺対策

**問** 県警察が、特殊詐欺組織の壊滅に向け立ち上げた、タスク・フォース、これまでの成果はどうか。

**答** 平成二十七年一月八日に約百名の体制で専従チーム「特殊詐欺対策緊急タスク・フォース」を立ち上げて、県警察全体の捜査力を強化し検挙活動を推進した結果、一月から五月までに、犯行グループの中核被疑者を含む百十人を検挙した。これは、昨年の同時期と比べて、三十八人多い検挙数であり、一定程度の取り組みの成果が現れているものと考えられる。

この他にも、「だまされたふり作戦」を数多く実施したことにより、被疑者の検挙はもろろんのこと、犯行抑止の面や県民の犯罪グループへの警戒姿勢の醸成にも効果があったと考える。

引き続き、県下全警察署との連携を密にし、犯行グループの壊滅により、発生の抑止に努めていく。

**可決・承認・同意された議案**

**可決された意見書**

**採択された請願**

職員等の退職手当に関する条例等

児童福祉施設設備及び運営に関する基準を定める条例

児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例

児童福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例